

●●● 第一節 出会いを生かす ●●●

出会いの中に仕合せが

人は、日々多くの人との出会いを重ねて生きています。家の中はもちろん、隣近所、職場や学校など、日常生活のさまざまな場面で人と接する機会があります。お互いに声を掛け、明るく挨拶をする人もいれば、擦れ違うだけの人もいることでしょう。

縁があつて、言葉を交わすようになって、「この人とは気が合う」「あの人とはどうも馬が合わない」ということもあるかもしれません。中には、「人に気を使うのは面倒だから…」と、なるべく声を掛けないという人もいるでしょう。

しかし、「一人で居る方が気楽」「人の世話にはならない」と思っている人も、人間の暮らしは、必ず誰かの支えを受けて成り立っています。バスや電車に乗ったり、買い物をしたり、食事をしたりするのも、たくさんの人との関わりがあつて初めてできることです。かつて直使は、このようにお教えくださいました。

直使のお言葉（平成五年五月十五日）

人間は、一人で生きていくわけではありません。家庭や近所、職場など、多くの人々との支え合いの中で生きています。言い換えるならば、無意識のうちに、自分には社会から影響を受けています。影響を受けているということは、同時に自分自身も、いつの間にか知らず知らずのうちに、周囲の人々に影響を与えているともいえるわけです。いわば、自分と社会とは、さまざまな面で深くつながり、交わっているということです。これは、人生を考えていく上で、最も基本となることです。

お互いに影響を与え合う存在であると分かれば、一回一回の出会いを大切にできるでしょう。ところが、出会いを大切にしたいと思っても、相手の言動によって気持ちが悪く引いてしまうことはないでしょうか。心が知れていても、相手が感情的になったときには「短気が出なければいい人なのに…」などと感ずることもあるかもしれません。逆に、苦手と感ずっていた人でも、意外な優しさに触れて、「実は温かい人なのだ」と見方が変わることもあるでしょう。人の感じ方は、相手の感情にも左右されやすいものです。

十人十色といわれるように、人それぞれに育った環境も違えば、考え方や価値観も異なります。たとえ、好みや意見が違ってても、否定したり、反発したりせずに、まずは相手の話に耳を傾け、「なるほど、そういう見方もあるのか」と受け止めていくところに、自分の視野も広がっていきます。誰にも、得意なことや苦手なことがあるものです。相手の持ち味を認め、生